



団体交渉  
終了! ②

# 新たな取り組みで雪への対策を!

## 申23号・2017年度冬期に発生した問題に関する申し入れ

2017年度冬期では、これまでの経験則に基づく対策や、現在の体制だけでは限界があることが露呈しました。除雪体制の見直しや、客観的な数値データを活用した運転規制の実施など、今年度の冬期を教訓とした新たな体制の構築について求めました。

### 未然の除雪計画強化のため雪況カメラを増設

雪積量や雪質等も関係するため、乗務員や駅員にとっては運行継続の可否や除雪要請の判断が難しい点も多いことから、雪を抱えて列車が停車する事象を防ぐ手段として拠点箇所に線路上の積雪を観測する機器を設置して、除雪の判断基準を設けるよう求めました。

<組合> 積雪量だけでなく雪質もあり判断が難しい。ルール化すれば雪を抱えて停車することも無くなるだろうという提言だ。仕組みを変えてはどうか?

<支社> 雨や風の規制と違い除雪が入るので時間がかかる。未然の除雪計画を立ててしっかり除雪に力を入れる。将来的に否定はしないが、未然の除雪計画を重点的に行う。

- 状況把握のツールとして昨冬10箇所設置した雪況カメラを40箇所程度まで増設したい。
- 闇雲に設置ではなく、雪を抱えて止まった事象が起きた所を優先して設置する。
- 雪況カメラの画像はJoi-Netがつながる環境であれば駅や運輸区でも見られる。
- 除雪の判断基準はこれまで通りと変わらず、乗務員からの申告による。

### 長岡車両センターに乗用除雪機械の導入を検討

長岡車両センターに構内除雪専用のMR配備を求めましたが支社側は、除雪機械の配置は関係線区全体の除雪体制を考慮しながら検討するとして、乗用除雪機械の配備を検討していると回答しました。

- 乗用除雪機械のスペックはMRの半分程度と劣るが、積もる前に除雪すれば効果を発揮できるので、雪の状況に合わせてこまめに運用する。
- 操縦は長岡車両センターで考えている。回転部があるので必要な教育は検討していく。

<組合> MRを車両センターで借りて社員が運転するというのは現実的ではないのか?

<支社> 教育等をすれば出来るとは思うが、軌道モーターカーの資格は難しい。



# 今年度の冬期を教訓として新たな体制の構築を!